

四季報 冬号

第二百二十八号 (No.128)

芹沢文学研究会・会報

令和6(2024)年1月31日(水)刊行

◎芹沢光治良記念文化財団 最新情報

財団から、「財団ニュース(8)」が發送、令和5年12月吉日。

能登半島に

大地震…

壊れた家に

雪が降りたる！

松林庵主人

代表理事 勝白泰(ご挨拶)、理事 岡寿里(ご挨拶)。「芹沢文学のまわりでシリーズ(4)」野見山恵美子。事務局より報告 行事予定①朗読劇3月頃、②光治良忌3月頃、③光治良ノート(4)ブルジョア④5月発行。

令和5年11月14日に小学館からP+D BOOKSとして『ブル

ジョア・結核患者』(初期短編小説集)が刊行されました。12

月17日に『ブルジョア・結核患者』刊行記念

講演会(講師鈴木吉雄がサロン・マグノリアで行

われました。36名参加。芹沢光治良没後30年記念(3)。ポストカードも作成されました。

ポストカード

☆沼津市芹沢光治良記念館 沼津市制100周年記念 企画展

「沼津ゆかりの文学者たち」第2回は、12月15日(金)～5月31日(金)で開

催されています。開館時間9:00～17:00 休館日 月曜日、休日の翌日、年末年始

第2回の企画展の「図録」(A5判49頁)も令和5(2023)年12月15日に発行されました。

名譽市民の文筆者 芹沢光治良・井上靖・大岡信 沼津ゆかりの文学者 明石海人・大岡

博・大宰治・田中英光・梶根美介・宇佐美りん。色紙、写真、電報、書簡、絵葉

書、文学碑写真、同人誌、詩稿ノート、歌集、歌碑、遺稿集等が収録されています。また、「主な沼津ゆかりの文学者たち一覧表(近・現代編)」と「沼津ゆかりの文学者(近・現代編)」も別紙に編集されたものが挟まれています。

●芹沢光治良文学愛好会の会報 通信 No.531

芹沢光治良文学愛好会の例会が、東中野区民活動センターの洋室4(2階)で

行われています。第530回は、12月24日(日)に行われました。短編小説「洋上の

虹」をテキストにして、芹沢耕太郎氏が司会したようです。

今回の会報の同封資料として(1)テキスト『洋上の虹』(母子版読書用2種類)、(2)X(旧Title)

での芹沢光治良 (3)言いたい放題「開戦の日」鈴木吉雄 沼津朝日2023年12月8日、(4)芹沢

光治良自伝「わが青春13 猛勉で全科目に優」(静岡新聞 昭和60年(1985)年2月16日(土))

(5)ラッシュブルジョア・結核患者』小学館2023年11月9日発行が同封されていました。

◎芹沢文学愛読者の会 短信 第231号 10月30日

安井正二・恵美子夫妻のお世話で発行されている「芹沢文学愛読者短信」第231号に

は、第4号「令和6年紙上3分間スピーチ」を作成して、令和6年1月25日送付

予定とのこと。毎月1月に行ってきた新年会を6月9日(日)に「芹沢文学愛読者の集

い」として行う予定。また、名古屋芹沢文学読書会で芹沢光治良著「神の微笑」を読ん

でいて、第26回は11月12日(日)に第6章を、第27回は12月10日(日)に第7章を読ん

だようです。会場は名古屋港図書館集客室(階) 時間は午後1時半～4時半。

▽沼津芹沢光治良文学愛好会 「天野博士を偲ぶ」不破久温氏の追悼文

【要約】沼津芹沢光治良文学愛好会の顧問で、母方の祖父が前田千寸先生である天野博人

◎川越・芹沢光治良文学愛読者の集い

埼玉県川越市で「芹沢光治良文学愛読者の集い」が行われています。会場はウェスタ

川越で、先着8名で行われたようです。「作家・芹沢光治良人と作品紹介」がテーマ。

◎同封資料①②③『小説家としての鈴木吉雄』沼津朝日 令和5年5月8日「言いたいほど」②隨筆
 『何年前の秋の夕べに』芹沢光治良 昭和39年秋「青いひろば秋8」至平社発行 4〜11頁「倉庫中村輝子」
 ③文学評論 連載『芹沢文学講話』③『最期の渾身の「神の書」の創作』人間の三部作Ⅱ 芹沢文学研究会代表 小串信正

連載 〆 会員便り No.84 第3回目の会員順の会員便りとして連載

芹沢先生を想い出して

神奈川県相模原市

石川慎二郎

2024年、辰年の新年が明けたらと思つたら、早々能登平島地震・羽田空港での航空機衝突事故とそんなでもない事件が相次ぎました。辰年は過去の歴史から見ても時代の転換期と言われております。

人間の運命の第1巻が出版されたばかりの頃、お教会の高名な役員先生が我が家のお開扉が済んだ後、それを見せてくださり置いていきました。その頃、私は、漠然とはありましたがお道に対して疑問を持っておりました。その思いが人間の運命の第1巻で私の心に共感を呼び起こしたのでしようか？

いつしか無謀にも私は先生の旧宅を訪ねていました。今でも何を話したかは思い出せませんが、あの「八重垣姫」のお人形を背にした先生のお優しいお顔を拝顔していたことを思い出します。そしてその後も何回もお邪魔したようです。

父の病の時は、母と兄も伴つてお邪魔して先生から神様のお水を戴きました（父はその後5年ほど延命しました）。当時は、否定的に思っていたお道が、今はすんなりと心に沁みて入って来ている事に気づかされております。

先生は、「文学は物言わぬ神の意志に込めるものだ」と仰つておられました。流石に凄まじかったけれど、お父様の布施込みが、先生の運命を築いたように思えてなりません。

一昨年、ゴルバチョフが亡くなった時に、私は「先生とお二人で、実相の世界で楽しく語り合っているのだらうな。」と思つたものでした。

おさずけを取り次がせて戴ける事がありますが、その時に「あなたのおさずけは温かいです。」と言われると、とても嬉しくこんな私でも親神様にお許しただけのかなと、喜びに包まれます。

やはり、色々と世情は難しい状況ですが、少しでも人を助ける心を以つて、生かされていることに感謝しながら、徳を積む人生を歩んで行く事が、最も大切な事だと信じて今日この頃です。

▽石川さんは、NPO法人「学びサポート研究会」に入りマジックを担当しておられます。お元気に活躍中です。

◎芹沢文学研究会 2023(令和5)年度 会計報告 反省と展望

*会員各位 「会計報告」と「反省と展望」などを御了承下さい。

収入の部	前年繰越	96,170	支出の部	切手代	11,630	
	会費収入	32,640		文具代	7,304	
	寄付収入	9,760		コピー代	24,220	
		138,570			43,174	
会計決算	138,570-43,174=95,396円	(振替30,230+現金5,166)	会計責任	小串信正	会計監査	田村正義

【反省と展望】

・芹沢文学研究会として32年間継続しました。しかし、総会も研究会もやれていません。年4回の四季報としての会報と同封資料（『芹沢文学講話』等）を郵送しています。これまでの蓄えで維持し、熱心な方の寄付に支えられて継続しています。会員が3名増えましたので、今後も芹沢文学研究会を継続して行きます。芹沢文学に関心のある方や研究しようと思つている方々に「入会案内」でお誘い下さる。

・共同研究が出来ていませんが、会員各位の個人的な研究や評論を期待しています。論文・評論等を書きましたら、コピーをお送り下さい。芹沢光治良先生の没後30年の記念出版等は刊行出来ませんでした。今後取組みたいと思います。

★**新年度になりました、同封の払込取扱票にて年会費の納入をお願いします。**
 今年度も**年会費を1800円に据置きます。**同封の郵便振替にて**年会費の納入**をお願いいたします。自主的な寄付も受入れます。どうか、よろしくお願ひします。

▽新入会員の紹介

新入会員をお誘い下さい。 ♡・♡・♡

60 不破久温

静岡県沼津市大岡 沼津芹沢光治良文学愛好会代表 沼津の地元で月例会を開き、

3月に「光治良忌」、5月に「光治良を偲ぶ会」を開催しています。また、作品の朗読と音楽を聴く会、芹沢作詞対話会、文学散歩、講演会の聴講等も行っています。今後も芹沢文学の交流をしたいと思います。…………… ☆ 編集後記 ☆…………… 編集責任 小串信正……………

芹沢文学研究会の会報第128号(冬号)同封資料をお届けいたします。

新年の元日に能登平島に大地震が起きました。津波もあり、余震が続いています。2日には、羽田空港で航空機の激突がありました。今年の日本が心配です。今後、芹沢文学を愛読し研究して、無事平穏に暮らして行きましょう。会員の皆さんの今年一年の御健康と御多幸をお祈りいたします。